

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100552		
法人名	社会福祉法人 白富会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ひまわり園		
所在地	熊本県熊本市東区長嶺東3丁目3-70番地		
自己評価作成日	平成0年7月15日	評価結果市町村受理日	平成30年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成30年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅街の中に位置しており、周囲も気軽に散歩できる環境にあります。施設の近くには小学校もあり、児童の登下校時や運動場での活動時に子供たちの声が聞こえ、元気な声に入居者の笑顔もほころびます。明るく広いスペースで落ち着いた生活が出来ます。ご家族に対しても入居者お一人々のホームでの生活をブログにてお伝えしています。職員の元気も大切にしながら、入居者お一人々に楽しく目標のある生活が継続出来るように努め、笑顔でゆとりのあるケアを目指しています。また、認知症通所も共用空間で実施しており、在宅から来られるご利用者様との交流や、同法人が行っている保育園の園児達との交流等も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは小学校や民家に囲まれた静かな環境にあり、同敷地内にある併設施設と互いに力を合わせながら入居者の日常を支えている。建物周辺やデッキに咲く季節の花を愛でながらの水やりや、簡単な台所仕事、書道や塗り絵などの手作業等個々が出来ることに参加し、102歳の最高齢の方を交えた全員揃っての食卓がホームの日課となっている。熊本地震は強固な建物にも大打撃を与え、その後の復旧や改装に時間を要したものの、現在は災害前と同様の落ち着いた暮らしができています。年度目標に掲げた、“震災後出来なかったことをしていこう”のスローガンは、ケアプランの中にも一人ひとりの細やかな支援として盛り込まれている。身軽で衛生的かつ自尊心への配慮に特化した排泄用品への移行などの援助内容を細かく明記する等、全職員が現状をしっかりと捉え、必要な対応をしていくことの重要性が見えてくる。入居者にとって一日一日が貴重で大事な日であるということにこれからも力を注ぎながら、邁進して頂きたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔の絶えない施設づくりを基本に掲げ、「スマイルライフ」を職員理念に置き、運営理念を中心に日々取り組んでいます。	開設時から「笑顔の絶えない施設作り」を基本理念として、三項目からなるサブ理念を設けている。年度末にはその年の評価とともに理念について振り返り、見直しの機会を持っている。また、年目標に「災害後できなかったことに着手していく」を挙げ、気候がよくなるこれから外出の予定が計画されている。	地域密着型の事業所としてサブ理念にその存在意義や、姿勢を明文化することで職員ばかりでなく、地域に向けても馴染みのあるものになると思われる。また、ホームのパンフレット等に理念を掲載し、啓発につながることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設花壇を通じ、施設前を散歩されている方々との交流から、花の手入れ方法指導を受けたり、新しい苗を持って来て頂き一緒に植えたりしています。	敷地内に併設されたケアハウスや階下にある小規模多機能事業所と協力し、地域とに交流会（七夕会）を開いたり、災害避難所として有事の際の困難者の受け入れや、ジュニアボランティアとの交流が行われている。入居者はホーム周辺の地域資源を活用したり、玄関先の花の水やりの際には、人々と言葉を交わしながら生活している。	今後AEDの購入に至った際には、地域に向けて啓発し、一緒に講習の機会を持つことなども構想の中にあり、実現が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学やボランティア活動として施設にいられた方又は実習生に対し時間を取り、認知症ケアでの質問を受けその都度説明しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	その都度での問題点等を会議の場で検討すると共に、より良い施設運営のアドバイスを受けています。	28年の熊本地震後は特に自然災害への取り組みに力を入れ、運営推進会議の場を利用して、参加者とともに意見の収集や訓練の実施を行っている。参加者にはホーム内や入居者の様子、避難経路を確認してもらうなど工夫している。参加者からの「事前に議題を知らせて欲しい」との要望にもすぐに対応し、意見の出しやすい環境作りに努めている。	運営推進会議の中で避難訓練を実施しており、今後家族参加を検討されればと考える。なお、当初から地域包括・地域代表者・他の施設関係者の参加はありがたく、今後、参加人員の確保により、更に他方面からの意見の拡充が期待されると思われる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要時常に連絡を行っています。	地域包括支援センター職員の運営推進会議の参加により、情報や提案がもたらされている。管理者は相談事や必要に応じて行政を訪れては担当者との対話する機会を持ち、一昨年の地震後は特にホームの設備改修について助言や指導を仰いでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待について職員課会議内で勉強会を行い、虐待防止や身体拘束に該当する行為の把握と拘束をしないケアについての認識を深めた。	日頃より虐待や拘束について、テレビ報道などから事例を通話し合う時間を持っている。必要によってはアンケートにより職員一人ひとりの考えを知り、それらに繋がらないケアに努めている。また、研修会では拘束についての正しい理解と弊害について共有する機会が持たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に職員が参加し、その職員からの報告にて虐待防止についての認識を深めた。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて権利擁護に関する資料を使い、確認しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、契約書、重要事項説明書、運営規定を読み合わせ、同意して頂いた後に記名と捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置しており、記入して頂いた内容はスタッフに伝え、改善出来る様にしていると共に、直接希望を言われた場合は、対応できることは即対応することとしています。	職員は“意見箱”の活用について話し合いを行い、使われることのない現実「職員自身も意見を入れるようにしたらどうか？」などの提案が出されている。ただ、結論は出ず現状のまま入居者や家族から1対1で意見を引き出しながらサービスに繋げていくこととしている。	意見箱は少人数のホームでは内容によっては家族が特定される為、なかなか難しいが苦情ばかりでなく、家族の気づきや良い点なども記入してもらう様発信してもらえればと考える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議にて、検討会や意見の収集を行っています。	ホーム内は日頃より職員が意見を出しやすい雰囲気であり、検討が必要な案件については月1回の職員会議にて更に取り上げ、ケア向上に反映させている。定期的な管理者との面談にて職員は意見や提案を出すとともに、希望休や資格取得・研修などの機会が得られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間月単位の変形労働制に変えることで、年間の休日が2日増えた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員を中心に定期的な勉強会を行うと共に、安全対策委員会にて、職員から出た日々のヒアリの検証を行い、同時にその職員に書面にてアドバイスを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等の研修で他施設との情報交換を含めた勉強会に参加しています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活背景を知ると共に、傾聴を受容し本人にとって必要不可欠なことを見極め、安心できる関係づくりに努めています。又入居前に認知デイを利用して頂きながら馴染みの関係づくりに努め自然な入居への移行が出来る対応もしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要に応じ、日常生活の様子、健康状態の報告を行い、同時にご家族等からの要望を伺いながら、入居者様が安心出来る環境づくりに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族・主治医と連携を図り、必要としている支援を見極め、本人らしく生活出来る様支援している。必要に応じ、訪問マッサージや医療機関でのリハビリが受けられる様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を基本に考え、ご本人が出来る部分等の見極めを行いながら、積極的に自立に向けた対応に努めています。また、出来ない部分へのケアにも一緒に行いながら対応しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対し、報告・連絡・相談等を行いながら、ご家族に協力できる部分には力になって頂き、利用者様をご家族と共に支えることが出来ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、近隣の知人・友人等の自由な面会又は電話での対応を行い、関係性が継続できる様支援を行っている。	家族をはじめとした面会時に職員は、笑顔での対応や近況の報告を行い、気軽な訪問により関係が継続できるようにしている。また、皿洗いやお盆拭き・ブランターへの水やり、書の掲示などこれまでの経験や趣味・特技など無理なく楽しめるようにしている。居室環境においても馴染みの品の持ち込みの他、枕に大判タオルを掛けるなどその方の生活習慣にも配慮した光景を見る事が出来た。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	視聴覚障害のある方や認知症により意思疎通が困難な方もいらっしゃるので、職員が仲介となり、行事やレク等での交流が図れる場を設けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先が施設や病院の場合、情報提供書を作成し、退所後もご家族等から相談があれば対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族から希望や意向は常々尋ね、意向に添える様理念に基づきながら検討・対応しています。	職員は努めて傾聴や入居者とゆったりと過ごす時間を持つようにしており、その中で把握した思いや意向を職員理念である「スマイルライフ」と重ねながら検討している。また、家族や友人からも有意義な情報が得られることがあり、訪問時などは近況を伝えながら、本人の代弁者として意向などを聞き取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活背景を知ると共に、ご本人らしい生活が出来様、対応しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、カンファレンス、記録を通し、情報の共有をしていくと共に、その人に合った対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の状況を把握し、必要なケアを立案しています。又、介護計画のモニタリングは、毎月実施しており、ご家族に相談が必要な内容がある場合は適宜相談し対応をお願いします。	担当職員によるプランに関する指導を行い、入居者や家族の意向を反映したプラン作成に努めている。家族と一緒に本人を支えていくことを重要視しており、些細な変化なども職員との共有や家族へも適宜報告を行い、現状に即したプランになるようにしている。また、面会時や電話など家族の状況に応じてプランに関する話し合いや説明の機会を持ち、納得のもと承諾を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各ご利用者様個別に日々の記録を行うと共に、簡素化した文章ではなく、ポイントが明確に分かりやすいPOS方式を取り入れています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りご家族の急な申し出や受診対応等柔軟に行う様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様と一緒に食材の買い物に出掛けたり、花壇の整備を一緒に行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族とご利用者様とで病院受診される際には、必要に応じ、前もって情報提供書の作成を行い、直接電話での報告や受診時に持参して頂いています。	本人や家族の希望するかかりつけ医を支援している。殆どの方が協力医をかかりつけ医とされているが、家族対応で他の医療機関の方もあり、情報提供書により安心して受診ができるようにしている。結果については職員や家族とも共有を徹底しており、家族からの質問や相談にも真摯に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時、情報交換をしており看護職員が休みの時も必要な時は電話連絡にて指示を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は面会を行い、その際に担当Nsとの情報交換を行っています。退院の際には、入院先との情報交換や退院後の調整を行っています。また、入院時のはその都度、サマリーを作成し提出しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期への支援を見据え、ご家族と相談を行い、関係機関との調整や往診への協力を行っています。	看取り指針を作成し、望まれれば対応することとしており、もし本人・家族の希望あればそれは喜ばしい事であり、誠意をもって対応したいと管理者は語っている。現在家族からの相談に応じながら意思確認書の作成も進めている。往診可能な医療機関の存在は心強く、高齢者を支えるホームとして、職員のレベルアップや重度化・終末期支援への対応についての共有の重要性もあげている。	100歳を過ぎられた入居者もおられ、今後も全入居者の現段階で必要な対応について、家族などと話し合う機会を持たれる事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年間の事業計画に毎月の勉強会を決め、行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練を行っています。又、防災委員会を設け、年間の訓練を実施しています。また、訓練の際には、ケアハウスからの応援体制を整えています。	防災委員会を中心に併設する同法人施設全体で災害対策に努めており、年2回訓練を実施している。訓練には契約している防災業者の立ち合いが得られており、受けたアドバイスを今後活かすこととしている。職員の交代もあっており、防災に関するホームの取組についてあらためて周知徹底の機会を持つ事を課題としている。ホーム内の安全チェックは日々の掃除の中でも気を配り、業務日誌の中で行っている。	今後は避難訓練を実施する際、家族へも参加協力を得て行うことで、ホームの取組を知ってもらうことや、貴重な意見なども受ける事が出来ると思われ、取り組みに期待したい。また、併設施設で管理されている備蓄については、ホーム職員も一覧表などで周知されることが必要と思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	昔されていたお仕事や、ご家族の関係など、その方にあった言葉かけや安心できる声掛けに心がけています。	ホームは入居者が安心して、穏やかに過ごせるよう職員の言葉使いや支援方法も個別で検討しながら取り組んでいる。掃除をはじめとした環境の整備も尊厳に繋がるものであり、清潔で明るいフロアーになるよう努めている。また、食事時こぼしがちな方にも介護用エプロンではなく、サロンエプロンなどで対応しており、主婦の延長に居られるような光景であった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意向を確認し対応することに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課はありますが、その時の気分や体調、ペースを尊重しながら支援を行っています。(特に、食事や入浴)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日一緒に着る服をコーディネートしています。又、外出の際の鏡台を出口付近に設置し活用して頂きたいです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛付等を手伝って頂いたり、片付けの時には食器の拭きとりを一緒にやっています。	入居者と一緒に月1回程の食事レクや希望メニューを取り入れた支援も行っているが、基本的には業者調理による提供が中心となっている。希望のメニューについては、本人や家族からの聞き取りを行い決定している。職員は介助などや声掛けの必要な方の横に座り、嚥下状態を見ながら進めており、時には笑い声も響く和やかな食事風景であった。入居者が調理に関わる機会は少ないが、盛り付けや食器拭きなど出来る事で食への関わりを支援している。	職員は食事休憩を兼ねて持参した弁当などを摂っている。今後は味や量、入居者の思いを共有するためにも一人でも同じ食事を摂ることができないか検討されることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を確認しており、飲み物に関しては、ご本人の飲みたい物を聞いて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合った口腔ケアをスタッフで共有しており、毎食後には口腔内の清潔に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様ごとの排尿チェック表を利用し、定時誘導以外にも、その方のパターンを把握し、状況に応じて誘導と付き添いを行っています。	排泄チェック表を活用しながら、自立の方の継続や声掛け・誘導により個別支援の充実に努めている。浴室も含め、ホーム内には4か所のトイレが設置されており、入居者は使い慣れた場所や近場を利用されることから、職員は空き場所を確認しながらその時々で誘導を行っている。介護用品に携わった経験のある職員もおり、排泄用品については特に昼夜の使い分けや、性能を重視した布パンツの着用を家族へ相談しながら取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量の確認を行うとともに、利用者様の状態に応じ、乳製品を取り入れたりしています。運動に関しては、その利用者が出来る内容を取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日中ではありませんが、ご利用者様の意向や状況をふまえ、入浴時間を柔軟に設定しています。又、季節行事の中で柚子湯や菖蒲湯も取り入れています。普段は入浴剤も使用しています。	入居者の希望も確認し、週2～3回利用ごとに湯を入れ替え日中の入浴を支援している。汚染時はその都度洗浄や清拭を行い、気持ちよく過ごせるように努めている。中には入浴を拒否される方もおられるが、職員は日頃のコミュニケーションや職員間の連携を図りながら間隔が空かないようにしている。季節湯を行う際は、全員が楽しめるよう3日ほど継続して取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日によって利用者様の入眠される時間が違うため、その都度利用者様の決定にて入眠を促したり、その日眠くない時は一緒に話しながらテレビを見たりし、落ち着かれるまで一緒に過ごしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに服薬リストを綴じており、薬の服薬目的や副作用について各スタッフが理解出来る様に工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後の食器拭き等、利用者様自身での活動に対処しています。又、コミュニケーションの中から、ご利用者様の意向も取り入れながら、楽しみやレクリエーション等の気分転換の時間を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	各利用者様の状態に応じて施設周辺を付き添い散歩を行ったり、ベランダでおやつを食べたりし、利用者様の友人の方に協力して頂き外出、外泊等の気分転換への協力をしていただいています。	ホーム周辺は住宅街にありながらも田畑も残る環境であり、季節や入居者の状況に応じて身近な散歩に努めている。また、ベランダでは阿蘇の山々が眺められ、近隣小学校の児童の声を聴いたり、飛行機の姿を見ながらお茶の時間や、植木の手入れ、ウォーキングの時間を楽しんでいる。戸外に出る機会が少ない入居者にとってもベランダでの活動は身近な外気浴の機会となっている。限られた方ではあるが、家族や友人と外出や外食も行われている。	コスモスなどの季節の花見を兼ねたドライブ外出も計画されている。昨今は気候の良い時期は少なくなっているが、今後も家族の協力を得ながら入居者が地域へ出る機会や身近な外出の機会を支援いただきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人での金銭管理は困難な方ばかりなので、施設にて管理しており、園外行事等の際にご利用者の買いたい物を選んで頂き、スタッフが買い物に対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望により、家族に連絡出来る様、対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高いため圧迫感がなく、ベランダは南向きで開放感があります。近くには小学校もあり、元気な子ども達の声が聞こえる環境です。	共用空間の担当者を中心に、外出やイベントの写真掲示をはじめ、草花を活かしたホーム環境など季節感を感じながら過ごせる共用空間となっている。また、掃除が行き届き臭気のない環境は、訪れる家族にとっても安心感につながっているようである。震災後の改修後も依然と同様、高いリビングの天井は圧迫感がなく、入居者と職員の声が響きあい、和気あいあいとした日常を支えている。また、温湿度計も3か所に設置しており、季節や状況に応じて温度管理が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内には約3か所にソファや椅子を設置し、ベランダにはベンチを置いて好きな時に好きな場所を利用出来る様にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファ、タンス、写真等自宅にあったなじみの物を自由に持ち込んで安心出来る環境の整備をして頂いている。	居室においては、本人が安心して過ごせるよう新たに購入する必要はなく、家にあるものや好みものの持ち込みを依頼している。明るく使い勝手の良い広さと、家族の協力や職員の工夫によりどの部屋も落ち着きや居心地の良さが伝わってくる。居室に洗面台もあり、職員は食後を含め毎日4回の口腔ケアが支援されている。家族の面会時には近況を伝えながら、必要な品や物品の配置なども一緒に検討をするようにしている。	職員は換気や掃除に加え、日当たりの良いベランダを活かし週2回の布団干しなど出来得る支援に努めている。今後も自分の部屋として一人ひとりに応じた居室環境の整備を継続していかれることを期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各トイレ、通路、浴室等に手すりを設置し、すべてバリアフリーになっています。		